

# 平成 31 年度 教員免許状更新講習 シラバス

講習 番号	2	講習名	【選択】英語教育と異文化コミュニケーションの理論と実践				
担当講師	開催地	時間数	主な受講対象者	受講人数	講習形式	試験方法	
スティーブン・ローゼン 本岡 直子 栗原 武士	広島キャンパス	6 時間	小学校教諭、及び中学校・高等学校英語科教諭	30 人	講義	筆記・レポート	
開催日	8 月 2 3 日 (金)		予備日	8 月 3 0 日 (金)			
<b>【到達目標】</b> 英語教育の背景となる基礎理論と方法論を学び、実践への応用を図るための知識と情報を得る。							
<b>【講習の概要】</b> 本講座は英語学、英語文学、英語教育方法論の基礎理論を学びながら、教育現場での実践的応用につながる知識を得ることを目的としている。三人の講師がそれぞれの専門知識をもとに、独自の視点から、英語教育の現場を意識した以下のようなテーマを掲げて講義と実習を展開する：1) 言語と思考と文化の関係を論じる言語理論、2) 実践的コミュニケーションとアメリカ文化研究、3) これからの入試を考えた英文読解指導							
<b>【講習の内容】</b> <b>第 1 部 言語と思考と文化の関係を論じる言語理論 (担当：S. L. ローゼン)</b> 講義の前半では、言語、心、そして文化に関わる主要な理論について概説する。特にソシユールの意味論と、チョムスキーによる「認知論の革命」に焦点を当てる。また語用論とスピーチ・アクト・セオリーについて考察し、言語習得に関する知識と理解を深める。講義の後半では日本人教師が英語授業のクラスで使える実用的な教授方法について講義する。特にスティーブン・クラッシュェンのナチュラル・アプローチとこれに関連したアプローチを用いた方法を紹介する。  <b>第 2 部 メディア教材を用いたアメリカ文化へのアプローチ (担当：栗原 武士)</b> 「英語 4 技能」の向上というフレーズに代表されるように、技能としての英語能力がクローズアップされることの多い昨今だが、それと並行して、コンテンツ・ベースの英語学習、特に海外の文化に対する興味・関心を喚起することが、長期的にみた学習者の学びの質を大幅に左右することは間違いない。本講義では、身近なメディアを教材として用いることで、学習者をアメリカ文化へ導入する試みを検討する。  <b>第 3 部 これからの入試を考えた英文読解指導 (担当：本岡 直子)</b> 大学入試が大きく変わろうとしている。入学試験が、教育または学習のゴールというわけではないが、教育現場において無視することができないものである。本講座では、英語に関する民間のさまざまな資格・検定試験の特徴を紹介し、これからの入試を考えた場合、どのような指導や学習活動が必要か、英文読解に焦点をあてて考察する。							
<b>【備考】</b> 試験の際、講義テキストとノートの持ち込みを認めます。(ローゼン)							